

第2回データ戦略推進ワーキンググループ 検討にあたって

2021年12月2日

一般社団法人日本経済団体連合会
サイバーセキュリティ委員長
日本電気株式会社取締役会長
遠藤 信博

多種、大量のデータを直接活用しての価値創造は、ICT活用によりリアルタイム性をもった全体最適ソリューション（＝スマートソリューション）を創る可能性を高め、データは正にそのための価値源泉である。今後の人間社会は、エネルギー、医療等の全体最適型ソリューションを必要とする課題を多く有するため、我が国の積極的なデータ整備は、ひいては国際的な価値創造プレゼンスを高める事となる。以上の観点から、高い価値を生むためのデータの整備の仕方が必須であり、以下について申し上げる。

・データ活用の推進方策について

各分野での達成すべき価値目標（＝KGI）の設定が、価値を創造する上でまず必要であり、「どのような価値を創り出すためにどのようなデータが必要なのか」を明確化し、そのコンセンサスをステークホルダーの間で形成することが重要である。KGIの設定とコンセンサスにより、データが本来持つ、高い価値を生み出す可能性を高めると共に、データの積極的な提供をも促し、結果として、高い価値創造を実現できる。

このことで、安心、安全に関わる準公共分野、相互連携分野、そして災害等への我が国のレジリエンス向上に関わる領域に大きく寄与することができる。

・トラストについて

DFFTにおける「トラスト」の意味する内容について、共通認識が形成されていない。トラストサービスのあり方に限定せず、DFFTに必要な「トラスト」の要素・考え方を整理すべき。

また、「トラスト」には、データそのものに対するトラストのほか、「人」に対するトラストの考え方も重要である。データを取り扱う「人」の基準に関してもご検討いただきたい。

- ・分野間連携基盤について

データ連携のルール・ツール等検討において、欧州の GAIA-X の取組み等に対して従属的にならない意識を持ちつつ、こうした国際的なデータ PF の標準化活動に、リーダーシップを発揮して積極的に関与し、自らの position を構築すべきである。

- ・ベース・レジストリについて

データは、多種大量のデータ間での相関関係を取る事で価値が高まる。このため、KGI を想定し、その達成のために必要なデータの種類の組み合わせを意識し、更には、多くの相関が取れる様なデータ構成を推進頂きたい。

- ・オープンデータについて

データの標準化やカタログの UI 改善、周知活動はもとより、データの更新・連結・分析やシステムの広域連携等に取り組み、網羅性・一覧性のあるカタログを構築すべき。

データの価値はリアルタイム性により向上する。AI がデータを活用し、リアルタイム処理をすることを意識したデータの生成、収集方法を考慮頂きたい。

以上